

第10回群馬県専門学校フットサル大会

大会要項

主 催 群馬県専門学校サッカー連盟
後 援 群馬県専修学校各種学校協会
群馬県サッカー協会

大会役員

群馬県専門学校サッカー連盟	岩村 昌明
群馬自動車大学校	高島 敦也
山崎学園	真下 佐登史
大原スポーツ公務員専門学校高崎校	森 亮介
育英メディカル専門学校	今井 理恵
太田自動車大学校	荒井 啓輔
太田情報商科専門学校	二重作 圭祐
おもてなし専門学校	吉田 望
大原スポーツ公務員専門学校宇都宮校	藤本 裕貴

目的

フットサルを通じ健全な精神と体力の鍛練を図り、併せて教育の交流と充実に貢献すること、また、サッカーには参加することのできない学生も参加できることになり、より多くの学生相互間の親睦を深めることができることを目的とする。

参加チーム

男子	
群馬自動車大学校	2チーム
大原スポーツ公務員専門学校高崎校	3チーム
山崎学園	2チーム
育英メディカル専門学校	2チーム
太田自動車大学校	2チーム
太田情報商科専門学校	1チーム
おもてなし専門学校	2チーム
大原スポーツ公務員専門学校宇都宮校	2チーム
女子	
大原スポーツ公務員専門学校高崎校	1チーム
大原スポーツ公務員専門学校宇都宮校	1チーム
山崎学園	1 or 2チーム

大会会場

関南フットサルクラブ前橋 (群馬県前橋市) 4面

大会日程

6月29日(土) 9時30分試合開始

9時より各チームのキャプテンにより、組合せ会議を行う。

大会規約

- ・大会は予選リーグ方式とし、抽選会(大会当日)のとおり行う。
- ・順位決定戦はトーナメント方式により決定する。
- ・出場する選手は、自校の学生でなければならない。
- ・試合時間は5分とし、前後半の間に3分の休憩を入れる。
- ・順位決定トーナメントにおいて、時間内に決定しなかった場合は、サドンデスのPK戦により順位を決定する。
- ・選手エントリーは最大15名までとし、試合当日本部に提出する。
- ・審判については本部で用意をする。
- ・試合球は、本部で試合毎に用意する。
- ・その他のルールについては「専門学校フットサルルール」による。
- ・その他問題が発生した場合は、大会役員の協議により決定する。
- ・大会中の怪我については各校で対応をする。

専門学校フットサルルール

1. 競技者の数

- 1チーム5人で1人は GK。競技開始時、選手が5人いなければならない。
- 開始後、競技成立のための最小人数3人。交代要員最大 10 人。
- 選手は GK も含め、交代ゾーンから自由に交代できる。ただし、プレイ中の選手が、ピッチを完全に出てから交代選手が入る。
- GKの交代は、アウトオブプレイ中に、審判へ申告しなければならない。
- 交代の方法に違反すると警告が与えられ、相手チームの間接フリーキックとなる。

2. 競技者の用具

- フットサルシューズ、または、トレーニングシューズを使用。スパイクは禁止。
- 眼鏡は、スポーツ用の特殊なもの以外は使用禁止。
- 必ず、シンガード(すね当て)を着用する。
- 接触時、相手を傷つけるようなものは着用禁止。

3. キックオフ

- サッカー規則に準じる。

4. キックイン

- サッカーのスローインに代わるもの。ボールをライン上に静止させキックする。
- 立ち足は、ライン上か、外に置き行う。違反すると相手チームのキックインとなる。
- 相手競技者はボールより5メートル以上離れなければならない。違反すると警告が与えられる。
- 直接ゴールは認められない。

5. ゴールクリアランス

- ペナルティーエリア内からのキーパースローにより再開される。
- 直接ゴールは認められない。
- キーパースローは速やかに行う。

6. コーナーキック

- 基本的には、サッカー規則に準じる。
- 相手競技者はボールより5メートル以上離れなければならない。違反すると警告が与えられる。
- コーナーキックは速やかに行う。

7. 反則と不正行為

- 基本的には、サッカー規則に準じるが、**シールドチャージを含む全てのチャージとスライディングタックルは禁止**。ただし、スライディングそのものは反則ではない。
- 競技者が退場を命じられたチームは、2分間経過後に退場者以外の競技者を補充することができる。ただし、2分経過する前に、人数の多いチームが得点した場合は、少ないチームは、その直後に選手を補充できる。

8. フリーキック

- 基本的には、サッカー規則に準じる。
- 相手競技者はボールより5メートル以上離れなければならない。違反すると警告が与えられる。
- フリーキックは速やかに行う。

9. スリー・ファール

- 直接フリーキックとなる反則が、チームで**前後半それぞれ3つ累積**すると、4つめの直接フリーキックとなる反則からは、すべて第2ペナルティーマークからの壁なしフリーキックが相手側に与えられる。

10. 壁なしフリーキック

- 守備側 GK とキッカーの1対1で行われる。GK とキッカー以外は、ボールの後方にいなければならない。守備側競技者はボールより5メートル以上離れなければならない。
- キッカーは、直接シュートを行わなければならない。蹴られたボールに GK が触れるか、ゴールに当たってはね返ってからでなければ、競技者はボールにプレイすることはできない。

11. GKのプレイ

- 自陣のペナルティーエリア内では、スライディングタックルが認められる。
- 味方からの、意図的な、足(foot,feet)でのパスは、手でコントロールできない。(サッカー規則に準じる)
- ゴールクリアランスも含め、ボールを離れた後、ボールがハーフウェイラインを超えるか、相手競技者によってプレイされた後でなければ、身方競技者からのパスを受けられない。(手でコントロールしなくても反則となる)
- スローイングでの直接ゴールは認められない。

12. オフサイドはない。